

5章 生物多様性に配慮した森林配置 （広域的な配慮のために）

5-1 はじめに

5-2 現状の把握

5-3 過去の状況の把握

5-4 広域的な配慮

5-1 はじめに

2

◆林業地域での生物多様性の保全は、2つのスケールで考える

1. 広域的な地域の中で森林の配置を考える（5章）
2. 単一の林分（小班）の中で多様性を高める（6章）

◆地域の中での森林の配置（ゾーニング）

- ・地域の将来像（生産目標、保全目標）を決める
- ・生産性の軸、生物多様性保全の軸をベースに森林配置を検討

5-1 はじめに

3

ゾーニングの例

アクセスなどが不利で針葉樹人工林の維持が困難な立地では、広葉樹との混交林化を進める

湖沼周辺や溪流沿いは天然林を配置（保全）

集落周辺では生活林（里山）を配置

立地条件の良い場所では、木材生産のための針葉樹人工林（経済林）を配置

出展：「提案型集約化施業テキスト」

5-1 はじめに

4

- ◆ゾーニングを考える上で難しいのは、生産性の高い場所と、生物多様性保全のために重要な場所が重なる場合
 - 例）低標高、緩傾斜地を好んで生息する生物がいる
 - 溪畔林は生産性が高く、生物多様性保全上も重要
- ◆このような場合は地域の合意を得ながら、総合的に判断する必要がある

5-2 現状の把握

5

- ◆現状を地図上で把握。
- ◆地域の中で、以下の様な生物多様性保全上、重要な森林はどこにあるのか
 - ・希少種の生息する森林
 - ・地域固有の生態系を代表する森林
 - ・大面積の天然林

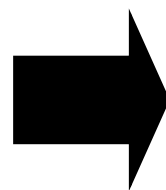
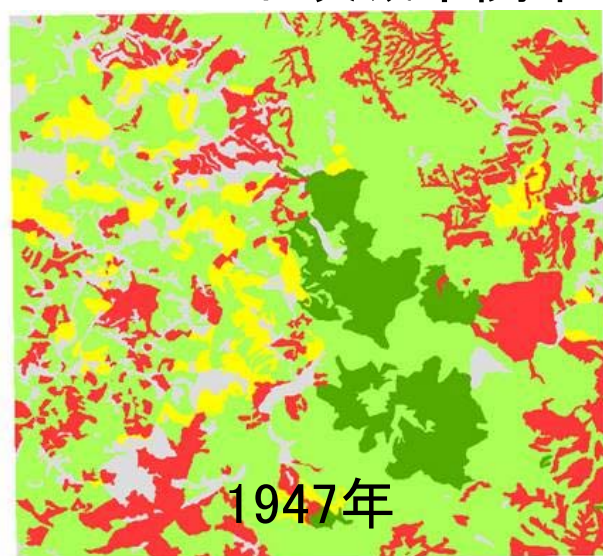
5-3 過去の状況の把握

6

◆過去の状況を航空写真などで把握

- ・地域本来の森林生態系はどのようなものか
- ・地域の土地利用や森林の状態はどのように変化してきたのか
- ・その結果、減少した森林タイプは何か それはどの場所で減少が著しいのか

北茨城市関本町小川の50年間の土地利用の変化



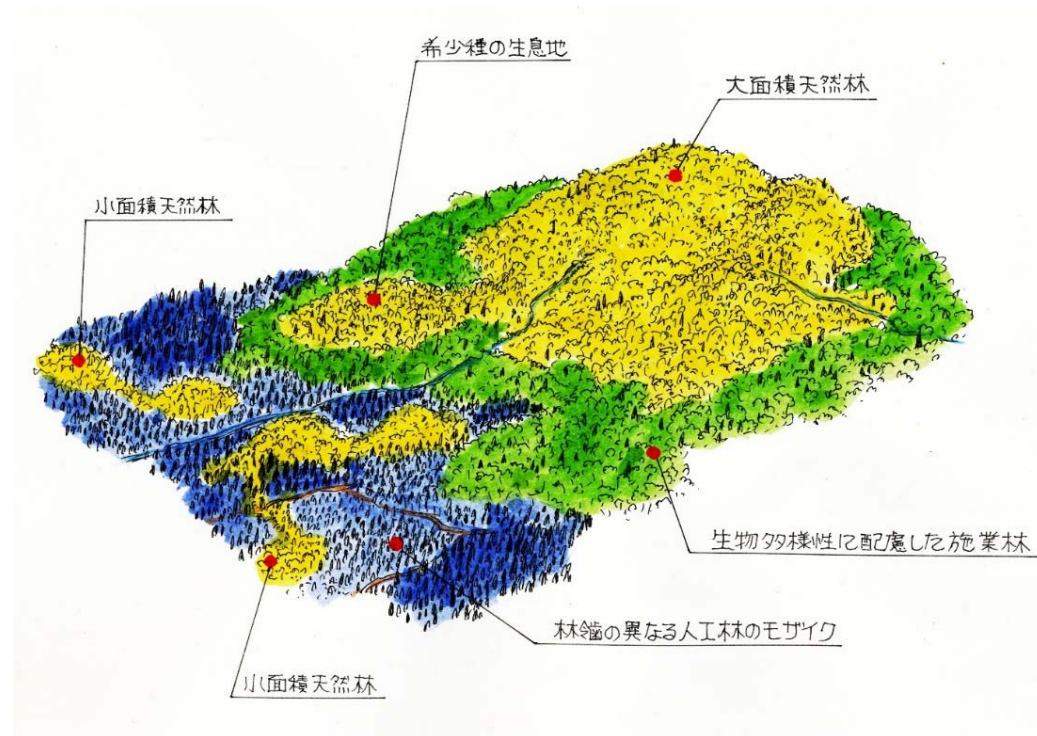
出典: Miyamoto et al. 2011

老齢林 二次林 針葉樹人工林 草地 農地他(含マツ林)

5-4 広域的な配慮

7

- ◆以上を踏まえて、地域の**保全目標を設定**する
- ◆そして、生産目標とバランスをとりながら森林配置を決める
- ◆生物多様性を保全するための森林配置は地域によって様々



生物多様性に配慮した森林配置の一例

広域的な配慮の例

- ◆ 希少種や地域固有の生態系を保護する
- ◆ 広い面積を必要とする動物のために、大面積天然林を確保する。目安としては40ha以上
- ◆ 大面積天然林の周辺で、生物多様性に配慮した施業を行うことで緩衝地帯とする。また、そこから沢や尾根沿いに保残帯を延ばすことで森林の連結性を高める
- ◆ 地域の本来の森林生態系のうち、過去から比べて減少した森林タイプを、減少が著しい場所で再生させるように努める
- ◆ 上記以外の場所では、林齢の異なる人工林をモザイク状に配置する。その際、小面積天然林を維持・再生することにより保残帯を設置し、針葉樹林と広葉樹林のモザイクを確保する。天然林の目安として、地域全体の天然林率が40%を越えるように設定する

5章 まとめ

9

◆地域の中での森林の配置（ゾーニング）

- ・ 地域の将来像（生産目標、保全目標）を決める。
- ・ 生産性の軸、生物多様性保全の軸をベースに森林配置を検討する
- ・ 生物多様性を保全するための森林配置は地域によって様々
- ・ 生産性の高い場所と、生物多様性保全のために重要な場所が重なる場合は注意が必要